

(様式第2号)

事業所名 グループホーム季楽里ふあむ

目標達成計画票(事業所記入)

作成日: 平成 30年 12月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	36,38	トイレ誘導等の際は他者には聞こえない程度のトーンで声掛けを行っているが自己評価したが、評価時に「…さんのパッドを持ってきて」というスタッフの声に対して、他の方も居られる為プライバシーに欠けているのではないかと助言を受けた。また、個人情報という点でも具体的な例(スタッフ同士の食事会の時に、利用者の事を話していたら近くにその利用者の方の親類が居られた)を話してもらい、利用者の情報は事業所内だけで使用する事を再確認した。	声のトーンやプライバシーに関して、職員間で統一した意識を持って日々の支援を行う。	・職員同士、お互い注意しあう事で気付きを持つ。 ・接遇に関して、再確認の意味も含めて外部講師による研修を行う。 3ヶ月
2	2,3,19,35	自治会や地域の清掃活動、利用者の散歩を通して地域の方々と挨拶を交わしている。評価時に、地域の方が介護方法などの相談に気軽に立ち寄りもらえる開かれた施設を目指してはとの助言を受けた。また、(夜間想定した)避難誘導訓練の際に地域住民の方にも協力を頂いてはとの助言があった。また、災害に備えて非常食を備蓄しておく事も提案された。	施設行事や避難誘導訓練に近所の方に参加してもらい、立ち寄りやすい場となる様、情報を発信する。	・月ごとの行事の情報や、介護相談場所として気軽に立ち寄りていただく様、毎月のホーム新聞を回覧板へ綴じてもらい、情報を発信する。また、備蓄についても準備を行う予定。 3ヶ月
3	33	看取りに関しては未実施で、どこまでの対応が出来るか課題があると、自己評価行った。看取り指針はあるが、看取りマニュアルは作成していない。	本人、家族の希望に応じた看取り支援が出来る。	・一般的に医療が必要で無くなった時に、どういう経緯をたどるのかマニュアルを作成する。(必要時、家族へ説明しておく) ・勉強会の実施。 6ヶ月
4	19	面会に来られた際や行事参加時、病院付き添い等本人を交えた交流を取っているが、なかなか面会に来れない家族の方もおられる。(施設で面会すると寂しい思いや認知面を意識される方も居られる)	家族との定期的な面会が出来る。	・事前に「何時頃…へ花見に行きます。」等の外出レク等を通して現地に直接来てもらい、本人様と面会してもらう。 3ヶ月
5				ヶ月

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。